水と緑　人のいきかう　高島市

広報たかしま Takashima

2008 5.15 平成20年 No.67

広報たかしま（平成20年5月15日号）　第67号

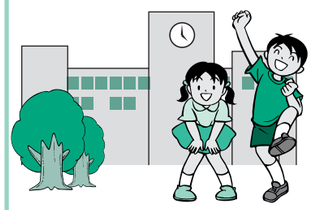
■表紙の写真

4月20日(日）に「高島トレイル春の一斉点検」が行われました。当日は、地元山岳会をはじめ、自衛隊員や消防士など約70人が10班に分かれて、倒木処理やゴミ拾い、目印のテープ付けなどを行いました。この日の山は、まだまだ冬の様相でしたが、この号が届くころには、新緑が目にまぶしい、快適なトレイルをお楽しみいただけると思います。

❷　タウントピックス
❸・❹　お知らせ拡大版
❺　いきいき元気生活
❻・❼　みんなで子育て、親育ち！
　地域で子育ち、親育て！
❽　防災・消防情報
❾・⓬　平成20年度行政組織機構
⓭　警察・交通事故発生状況・消費生活相談
⓮・⓱　情報お知らせ版
⓲　藤樹先生生誕400年祭関連事業
⓳　文化情報
⓴　輝け！おらが学校、藤樹先生の逸話

■発行／高島市　編集／企画部秘書広報課
〒520-1592　滋賀県高島市新旭町北畑565番地　☎0740(25)8130
http://www.city.takashima.shiga.jp
t-info@city.takashima.shiga.jp

輝け！おらが学校



▶マキノ北小学校

小さくてもキラキラ輝く

本校は高島市の北端に位置し、知内川の上流域に集落が点在している山間にあります。

素晴らしい子どもたちと、支える保護者・地域住民・教職員が、『地域に根ざすマ北っ子（ま）なぶ子・（き）づく子・（た）くましい子）の育成』という教育目標を共有し、少人数学校のよさを生かし課題の克服を進め、小さくてもキラっと輝く学校を目指しています。

▶みんな遊び

強くつながる子どもたち

6人の卒業生を20人の在校生が送った「卒業式」。どの学年の児童も感極まって目に涙を浮かべていました。児童数は少ないけれど、その分、子どもたちの縦のつながりの強さを実感しました。

手本となるリーダー

全校児童総会で、低学年児童が高学年児童に対して、「遊んでもらえて楽しかったです」「一緒に帰ってくれてありがとう」と喜びを発表していました。それを聞いた高学年児童は、「喜んでもらえると僕たちも嬉しいです」と、すかさず返します。低・中学年をリードし、よい手本となっている高学年は、低・中学年の目標になっています。

▲全校児童総会

マキノの良さにふれる

コンニャク・ソバ・シイタケ・モチ米などを、校区の皆さんにお世話になりながら育てています。収穫した食材は、「実りのまつり」に祖父母を招待して一緒に食しています。

また、マキノまちづくりネットワークセンターに協力いただき、マキノの自然や歴史、文化について学習しています。学習成果発表会や学習参観では、祖父母や地域の方が児童の発表や活動を見て感心し、「○○さんの発表、とてもよかったで」と話されます。すると、その親子はもちろん教職員も一緒に嬉しくなるという一コマもありました。

▶学習発表会

良さを生かし、課題は克服

子どもの良さを認め、誉め、課題は厳しく指導するという、少人数学校であるがゆえの良さを生かして、「聞く、話す、読む、書く、計算する」などの基礎学力の定着を徹底しています。

一方、少人数ゆえの学び合う、伝え合うなどの体験不足を補うため、大規模校体験や、うみ（日本海や琵琶湖）へのチャレンジ体験などにも取り組んでいます。

▶うみ体験

藤樹先生の逸話②　「にわとりの善い鳴き」

藤樹先生が大洲藩士であったときの話です。藩の同僚の中に、難産で苦しんでいる女房がいました。

先生は早くから医術に通じていたため、その場に居合わせました。

すると、その家のにわとりが夜中に突然鳴きはじめたため、一同は不吉な予兆かと思いました。

しかし先生は**「これは善い鳴きである」**と言って喜びの眉をひらくと、これまで苦しんでいた女房も先生の言葉に勇気が出て、つつがなく出産することができました。

［解　説］

藤樹先生の叔父が京都で医院を開業していました。藤樹先生はその叔父から医術を学んだので、大洲藩内では広く知れわたっていました。

マキノ北小学校のデータ
学級数・児童数：4学級・25人
所在地：マキノ町小荒路1046-1　☎(28)0038

R70 古紙パルプ配合率70%再生紙を使用。
PRINTED WITH SOY INK 大豆インクを使用しています。